



Légère™
REEDS LTD.



レジエール・ オーボエリード 遂に登場！

安定して長く使える革命的リードの誕生

「もちろん ベルリンフィル でも使っています！」

長く開発が待たれていたレジエールのオーボエ用リードが、この夏、東京で行われた国際ダブルリード・フェスティバルで世界に先駆けて発売された。レジエール・リードで演奏も行ったハルトマン氏と、レジエールリードの生みの親、ギィ・レジエール氏に話を聞いた。

記事協賛：株式会社グローバル

——バスーン用のレジエール・リードはすでに発売されていますが、オーボエ用のリードが発売されるのは今回が初めてですか？

レジエール まさに今回のIDRS（国際ダブルリード協会）東京大会が世界初の発売となります。

——バスーン・リードより発売が遅れたのは、オーボエ・リードの方が開発が難しかったということ？

レジエール おなじダブルリードですが、難しさがまるで違いました。バスーンのリードはサイズが大きく、先端に向けてカットがなだらかなりますが、オーボエのリードは小さい上に、カット面が先端に向かって急激に薄くなります。しかも、カット面が小さいということは、ほんのわずかな手を加えただけで全体がガラリと変わってしまうということ。何年ものあいだリードを計測し、コンピュータマシンを使って削ってみましたが入りきりませんでした。

転機となったのは、3年前にクリストフ（ハルトマン氏）と出会ったことでした。シンシナティで行われたIDRSコンファレンスで、バスーンのマーティン・クースクマンがレジエール・リードを使ってソロを演奏したところ、「僕の演奏を聴いてクリストフがレジエール・リードにとっても興味を持ったようだ」とクースクマンにクリストフを紹介されました。それからクリストフとやりとりを交わし始め、カナダ（レジエールの本社はカナダにある）にも何度も来てもらって研究を重ねた結果、ようやく満足できるものが出来上がり、昨年のIDRSコンファレンスでクリストフ、クースクマン、それにクラリネットのリッカルド・モラレスの3人が全員レジエール・リードを使っ